

秋田県名誉県民 日 沼 頼 夫 氏 功績



生年月日 大正14年1月19日生

顕彰年月日 平成元年9月25日

【功績】

秋田県山本郡八森町に生まれ、昭和17年秋田県立能代工業学校機械科を卒業する。昭和25年東北大学医学部を卒業し、3年間の旧制大学院修了後、昭和29年同大学医学部助手となる。昭和32年医学博士の学位を授与され、同33年米国フィラデルフィア小児病院ウィルス研究所に留学する。昭和35年東北大学医学部助教授、同40年米国ロズウエルバーク記念研究所客員研究員を経て、同43年東北大学歯学部教授、同46年熊本大学医学部教授となる。

昭和55年には京都大学ウィルス研究所教授に就任し、同63年退官後は、シオノギ医学研究所長及び京都大学名誉教授として現在に至っている。

氏の永年にわたる医学の研究及び後進の指導は、数多くの優れた業績を残し、国内外で高い評価を受けている。

その研究分野での業績は、人間の病原ウィルスの全般にわたるが、特に、エプスタイン・バー(E B)ウィルスと成人T細胞白血病(ATL)ウィルスの研究が主なものである。E Bウィルスに関する研究では、試験管内発がん機構の解明、増殖及び抗原・抗体系の解析や、E Bウィルスに対する細胞障害性T細胞の樹立とその解析に関して行われ、その業績が評価されて、昭和55年2月に高松宮妃癌研究基金学術賞を受賞している。

また、ATLウィルスに関する研究では、成人T細胞白血病の成因が新しいレトロウイ

ルスであることを証明した。これは、ヒトのがんがウイルスでも起こることを世界で初めて裏付け、がんウイルス研究に新しい局面を開いた。この発見の意義は大きく、高い国際的評価を受け、昭和56年野口英世記念医学賞、昭和59年ベーリング・北里賞、昭和60年米国ハマー賞など、国内外の数々の賞を受けている。

一方、これらの研究を通して育てられた多くの若い研究者は、現在各分野で活発に研究活動を行っている。

このような研究・教育の両面にわたる業績により、昭和61年文化功労者、平成元年恩賜賞・日本学士院賞等多くの表彰を受けるなど、その功績は県民ひとしく誇りとするものである。

<追記>

平成21年、文化勲章を受章する。